

2019 年度第 1 回公立大学法人公立諏訪東京理科大学経営審議会議事録

日 時 2019 年 5 月 24 日（金） 13:25～14:40

場 所 6 号館 2 階第 1 会議室

出席者 唐澤議長、小越委員、岩波委員、岩崎委員、武田委員、小口委員、牛山委員

欠席者 林委員、名取委員、今井委員

[配布資料]

1. 2018 年度 業務実績報告書(案)(資料 1)
2. 2019 年度 年度計画(案)(資料 2-1)
3. 公立大学法人の事業年度計画 PDCA マネジメント・サイクルについて(資料 2-2)
4. アドミッションセンターの発足について(資料 3)
5. 2019 年度 公立諏訪東京理科大学入学試験結果(資料 4)
6. 2018 年度卒業生進路状況 (資料 5)

[議 事]

議事に先立ち、唐澤議長から河村洋副理事長の学長退任に伴う副理事長の後任として新学長の小越澄雄氏、入江淑人事務部長の学校法人東京理科大学への帰任に伴った理事退任による後任として 2019 年 4 月 1 日付で事務部長に昇任した牛山哲氏がそれぞれ本会議の委員となったこと、2019 年 4 月 1 日付で財務課長に承認した濱隆元氏が事務局として会議に出席することとなったとの報告があった。

審議事項 1、2 の審議に先立ち、唐澤理事長から資料 2-2 をもとに、本来業務実績報告及び当該年度の計画は事業年度の開始前に設立団体の長に届け出ることとなっているが、2019 年度の計画は学長及び事務部長の変更に伴う新体制で検討を行う必要があること、公立大学として初年度であり 2018 年度末の結果を踏まえて計画を作成する必要があることから、今回ご検討いただくこととなったとの状況報告があった。

1. 2018 年度 業務実績報告書(案)について

唐澤議長から資料 1 をもとに、2018 年度の業績報告書案をまとめたこと、全体評価・自己評価として「中期計画の進捗は順調」であること、小越委員・牛山委員から評価の根拠として図書館利用延べ人数や県内企業就職率等が数値目標値を大きく上回っていることや地域連携研究開発機構の設立と体制整備が優れて順調な項目としてあげられること、大学院への進学率の低さや教員の業績評価の実施等は単年度で評価が難しくどのように評価する必要があるか見当が必要であることが今後の課題となったこと等の説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

2. 2019年度 年度計画(案)について

唐澤議長から資料 2-1 をもとに、審議事項 1 で承認いただいた業務実績の進捗を踏まえ 2019 年度の年度計画案を策定したこと、大学院への進学率を向上させるために広報活動にさらに力を入れること、業務実績報告書の中で概ね順調とされている項目を重点課題として中期目標の達成に向けて進めていく予定であること等報告があり、審議の結果、原案どおり承認された。

なお、この年度計画案は期末決算の完了を待ちつつ、本議案が承認されたことも踏まえて 6 月開催予定の理事会に諮り、一部事務組合に届け出て評価を仰ぐ予定であるとの報告があった。

3. アドミッションセンター設置について

加藤教務・学生支援課長から資料 3 をもとに、適切な入学試験の実施及び入試広報活動を行う組織としてアドミッションセンターを 5 月 1 日に設置したこと、アドミッションセンターは既存の入試に関わる各委員会を束ねて上部のガバナンスを確立する組織となること等説明があった。

4. 2019 年度入試状況について

加藤教務・学生支援課長から資料 4 をもとに、2019 年度の最終的な入学者が確定し 311 名が入学したこと、志願倍率は機械電気工学科より情報応用工学科の方が高かったこと、入学者の出身高校所在地別では長野県が最も多く、またエリア別では東海エリアからの入学者が多いこと等報告があった。

報告にもとづき、岩波委員より諏訪 6 市町村からの入学生の人数もまとめていただきたいこと等の意見が挙げられた。

5. 2018 年度卒業生進路状況について

加藤教務・学生支援課長から資料 5 をもとに、2018 年度卒業生の進路状況をまとめたこと、就職率は学部合計で 96.5%となったこと、就職先としては県内の比率が高いが公立化完成年度には比率は変動する見積りであること、進学希望者は 11 名おり全員が進学先を決定したこと等報告があった。

以上